高知大学病院ニュース

〔編集〕
高知大学病院ニュース
編集委員会
委員長　大西　三朗
〔発行人〕
高知大学医学部附属病院
病院長　倉本　秋

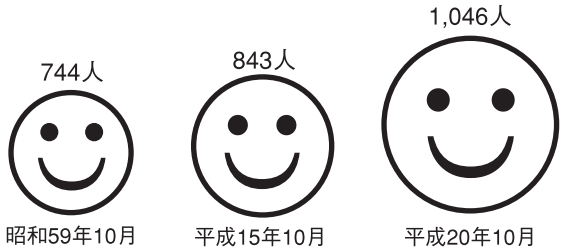
病院再開発に向けて

病院長 倉本　秋

病院「再開発」というのは耳慣れない言葉かもしれません。病院の古くなった建物を建替えたり、狭隘化した部分を建て増したりすることを一般に病院再開発と呼んでいます。私たちの病院は、確かに古くはなりましたが、職員全員の心がけで他施設に比べるときれいな状態で管理されています。しかし診療に必要な広さがないことは紛れのない事実です。

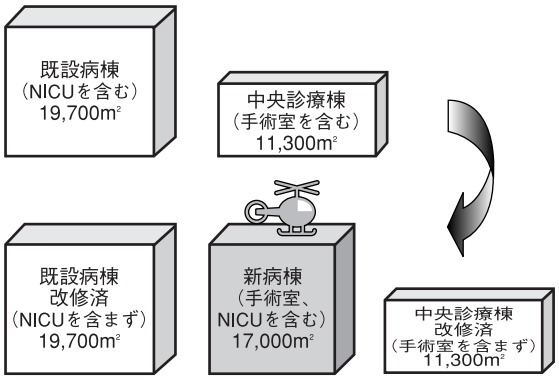
患者さんの数で比べることも可能ですが、ここでは図１に職員数を示してみました。昭和 59 年の 744 人から、法人化直後の 843 人までは緩やかな伸びでしたが、5 年間でさらに 200 人余増加しました。増やしたくても定員の縛りで難しかった国立大学から、法人化メリットで一気に解き放たれた感があります。まだ足りないのかもしれませんが、大学病院の機能、技量の向上、それに伴う県民の信頼、すべての集大成が職員数です。そして、その機能と技量を、職員全員が遺憾なく発揮できる場がなくなってきています。そこで病院再開発です。

［図１：病院職員数］



このような計画は概して、突然天から降ってくることが多いですが、私たちの病院はご存知の通り違います。平成 18 年からプロジェクトチームを立ち上げて、みなさんから「あるべき姿」、ご意見を募ってきました。そしてようやく集大成に近づきつつあるのが図２のプランです。これから文部科学省との交渉が始まります。この計画は今回の再開発だけでなく、20 年、40 年後まで、既設病棟や中央診療棟、外来診療棟までが建替えられる手順を踏まえての位置取りになっています。

［図２：再開発構想］



まず、約 17,000m²の新病棟を立ち上げます。平成 22年度末着工にこぎ着けられれば、約２年で完成です。そこに手術室が移り、病室が移って、以下順次既設病棟の改修、中央診療棟の改修とつながっていきます。念願のヘリポートも設置されます。個室の率を増やし、高知大学病院が目指すべき医療学教育研修の機能を盛り込みたいと考えています。まだまだ修正可能なプランですから、ご意見をいただければと思います。

繰り返し、経営状況説明会などで情報公開してきました通り、建築費のほとんどは診療報酬で償還する必要があります。健全な経営を保ちながら、職員の福利厚生にも配慮しつつ、再開発の計画を進めていく必要があります。「３年先には再開発の中で解決されるのだから我慢しましょう」もあれば、機能面、安全面から「今、やらなければならない」もあります。定期的な情報の共有をしながら、豪奢（ごうしゃ）とは違う意味での、「美しい」病院再開発を実現しましょう。

安全衛生管理室の取り組みについて

安全衛生管理室　松﨑　由紀

こんにちは、安全衛生管理室です。

何について書こうかと悩んでいたときに、ちょうど病院ニュース第100号で「安全衛生管理室の役割」について紹介させていただいたことを思い出しました。ご存知のとおり、平成16年の国立大学法人化で私たちの職場には労働安全衛生法が適用され、働く人が病気やけがをしないために、そして快適な職場環境の形成を目的として設置されたのが安全衛生管理室でした。私自身、産業保健分野の仕事に携わることがはじめてで分からないことも多かったのですが、産業医の奥谷先生をはじめ、多くの方に支えられ、やってこられたことに感謝しています。ここでは、安全衛生管理室の取り組みについて紹介させていただきます。

定期健康診断の100％実施をめざして

労働安全衛生法では、事業者は労働者に対し、年１回の健康診断の実施が義務づけられており、従事する私たちにも受診が義務づけられています。また、自己の健康管理に努めることは医療関係者として大切なことです。岡豊地区の定期健康診断の受診率は、毎年上がっていますが、今年も全員受診をめざしたいです。また、今年度から内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に着目した健康診断が実施されています。今後も、皆さんが健康で働くことができるように健康管理に関する情報提供、日常生活面での指導などの保健指導、健康診断結果にもとづく再検査や精密検査、治療のための受診を勧奨するといったことにも力を入れていきたいと考えています。

メンタルヘルス対策、過重労働による健康障害防止策

厚生労働省の調査では、約６割の労働者が仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じているといわれています。安全衛生管理室では、産業医でもある神経科精神科の下寺信次先生の協力のもとにメンタルヘルスに関する相談窓口を設置しています。心の健康について悩みや心配がある場合はお気軽にご相談ください。今後は、メンタルヘルスに関する啓発活動や教育なども計画していくことができればと思っています。

次に、過重労働による健康障害防止に関する取り組みです。長時間の残業や過重な労働が続くと、脳・心臓疾患を発症するリスクが高まることが医学的にも知られています。安全衛生管理室では時間外・休日労働時間が１月当たり45時間を超える方には、「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」を送付するとともに、産業医の面接指導を受けることができる体制を整備しています。この制度は、裁量労働制が適用されている教員の方々、健康上の不安のある方も利用できます。「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」は医療スタッフマニュアルにも記載されており、中央労働災害防止協会のホームページのWeb上でもチェックできますので、時間のあるときに、ご自身のライフスタイルや睡眠、休養について見直してみてはいかがでしょうか。

●中央労働災害防止協会
URL http://www.jisha.or.jp/web_ch/index.html

危険有害要因への対策

医学部、病院での業務には様々な危険有害要因が存在します。放射線被ばく、多数の化学物質（エチレンオキシド、ホルムアルデヒド、キシレン、抗がん剤など）や感染症などへのばく露、交替勤務に伴う深夜業務もあります。職種にもよりますが、腰痛や筋骨格系障害の高いリスクや対人関係のストレス、近年では医療スタッフが受ける暴力や暴言についても注目されています。このような危険有害要因による健康障害を防止するために、作業管理や作業環境管理が行われています。放射線業務従事者の被ばく線量の管理、化学物質を使用する場所での作業環境測定がそのひとつです。特殊健康診断や深夜業務従事者の健康診断も実施されています。また、産業医、衛生管理者による職場巡視を行っています。直接、皆さまの意見をお聞きしていくことで作業環境を評価するとともに、このようなリスクを少しでも少なくし、よりよい作業環境を維持できるように努めたいと思っています。

職業感染予防対策の一環としてはＩＣＴ（感染対策チーム）と協力し、B型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン接種を行っています。麻疹・風疹・水痘・ムンプスの抗体検査及び予防接種も実施しています。

おわりに

安全で質の高い医療を提供するためには、医療を提供する私たち医療従事者の健康と安全が確保されることも重要です。また、職員一人一人が心身共に健康であることは、病院の活性化にもつながると思いますので、今後も安全衛生管理活動を充実させていきたいと考えています。これからも安全衛生管理室をよろしくお願いします。

●安全衛生管理室相談窓口　E-mail：kaiteki@kochi-u.ac.jp

第45回 全国国立大学病院手術部会議を開催

平成20年10月20日

手術部副部長　田中　洋輔

本院の当番で執印手術部長が議長を務め、倉本病院長、宮井看護部長の出席のもと、上記会議を開催致しました。この持ち回り会議は本院を含め６大学病院が未開催となっていました。

当日は、会場のホテル日航高知旭ロイヤルに、全国の国立大学病院から手術部長、副部長、手術部看護師長等、計154名が出席し、例年通りの盛会となりました。特別講演として、東京大学心臓外科　高本教授に「診療行為関連死報告制度の行方」を、文部科学省医学教育課　平野大学病院 支援室長補佐に「大学病院等の諸課題について」を、滋賀医科大学附属病院　藤野看護部長に「滋賀医科大学における手術部看護師の確保対策」についてご講演頂きました。いずれも大きなインパクトを与えたようで、多数の方から「有意義な講演でした」との感想を頂きました。高本教授のご講演は、最近判決の出た福島県立大野病院産婦人科医師逮捕事件のような事例を今後どのように処理するか、という医療界全体の重要な問題についてであり、藤野看護部長のご講演は、滋賀医科大学病院病棟の７対１看護師配置後、病棟と比較して人数が少なく疲弊している手術部看護師の問題についての具体的な解決策についてでした。

この本会議に先立って、１年間幹事会で現時点の問題を抽出し、各幹事が分担して全国国立大学病院にアンケート調査を行ない、そのまとめの討議を行いました。テーマは「手術部看護師必要数の検討」「臨床工学技士タイムスケジュール調査」「手術部における危機管理：災害・事故」「医師国家試験、OSCEでの手術部関連問題の傾向とその分析」「手術部手洗い教育における手揉み・アルコール擦式併用法の利用状況」「手術部内での画像撮影に関するアンケート調査」「手術部の各種ガイドライン」「手術台稼動状況調査」「全国基幹病院手術室現状調査」「手術器具を介するプリオン病二次感染予防に関するアンケート」「医療機器に対する業者立会い制限に関する調査報告」「貸し出し器械の現状調査報告」「手術用機器・設備の故障・事故に関する調査」と多岐にわたりました。また、看護師長研修会を代表し本院手術部弘末師長が「看護周辺業務について」を発表しました。

「全国基幹病院手術室現状調査」では40の国立大学病院と68の公立私立等大規模病院の手術内容の比較が発表され、国立大学病院の手術症例の12％が６時間以上の長時間手術（他の病院では４％）との結果など、国立大学病院が高度手術を多数施行し、難しい症例の紹介の終着駅となっている現実が判明しました。

後日、出席された他大学の初めて高知を来訪した方から頂いた感想では、高知の味を賞賛する声が多く聞かれ、住んでいる者は気づかないだけで観光資源が豊富であると気づかされました。

最後に、教員支援課大野岡豊室長はじめ総務管理課の方々には煩雑な事務を担当頂き、大変お世話になりました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

永年勤続者表彰

今年も永年勤続の方に対する表彰式が11月21日（金）に朝倉キャンパスで行われました。表彰式の前に管理棟正面玄関に集まっていただき記念撮影をしました。以下が受賞された方のお名前です。（左より）

亀山智代さん（検査部）、寺田ゆかりさん（看護部）、
永野由紀さん（看護部）、池田ルミさん（看護部）、
曽我美香さん（総務管理課）、［大坪佳代さん（看護部）］

おめでとうございます。

職場紹介　眼　科

文責：西野　耕司

眼科は2008年８月に就任された福島敦樹教授のもと、診療・研究・教育を行なっています。全国的に医師不足が指摘される中、当科も御多分にもれず、外来、定期手術、緊急手術、研修・教育で手一杯となっていますが、一人でも多くの患者さんに満足していただける医療を、医学部学生には眼科に興味を持ってもらえる教育・研修を目標としています。

眼という組織は人体の中では本当に小さな臓器ですが、現代社会の情報は約80％が眼から入ってくると言われており、大切な臓器の一つです。小さい臓器ですが病気は様々であり、全身疾患の一部として最初に眼症状や眼所見が認められることもあります。例えば、動脈硬化の程度を実際に生体において、非侵襲的方法で検者の肉眼で見れるのは網膜血管だけです。また、糖尿病網膜症やぶどう膜炎などは眼だけを診るのではなく、他科の先生方と協力して全身への必要な治療を行なうことが大切であると考えています。

眼科では糖尿病網膜症や網膜剥離、外傷などに対する硝子体手術、角膜疾患に対する角膜移植、羊膜を用いた眼表面の再建術、白内障手術などの外科的治療については全国レベルの治療を提供できます。硝子体手術については以前から行なわれている切開創が20ゲージ（0.9mm）の術式から、25ゲージ（わずか0.5mmです）の小切開で行なう手術ができる手術器具、手術装置を導入し、より低侵襲な治療を行なっています。また、何度も再発を繰り返す難治性翼状片に対しては羊膜移植を用いた治療が高度先進医療として認可されています。

このような外科的治療だけでなく、内科的治療も積極的に行なっています。現在、中途失明の原因として増加している加齢黄斑変性（日本では緑内障や糖尿病網膜症などについで中途失明原因の４位、アメリカでは1位です）という病気がありますが、この病気に対する診断・治療についても全国レベルの治療を提供できるようになっています。

さらに、福島教授の専門であるアレルギー性結膜炎は、発症メカニズム、治療、基礎研究について、日本だけでなく世界をリードする研究が行なわれており、実際の診療にもフィードバックされています。

ここまでの話からするとあらゆる病気を治すことができるような表現になってしまいましたが、治療に苦慮することも多く、また十分な視力回復を得ることが難しい病気があることも事実です。しかしながら、一人でも多くの患者さんに高知大学眼科を受診して良かったと言っていただけるような医療を提供したい。これがスタッフ全員の思いです。今後ともどうかご指導の程よろしくお願い申し上げます。

診療状況

区分	外来	入院	
	延患者数	延患者数	稼働率
9月	20,879人（新来1,579）	15,515人	85.5％
10月	22,259人（新来1,587）	16,592人	88.5％

	院外処方せん発行率	紹介率（診療報酬上の紹介率）
9月	80.65％	62.9％（53.6）
10月	79.81％	64.9％（56.4）

編集後記

めっきり寒さが身にしみる季節となり、朝の通勤がつらくなってまいりました。今回の病院ニュースでは、第45回全国国立大学病院手術部会議を当院が担当して開催したこと、その中で、全国的に国立大学の手術部においては、看護師の人数が少なく疲弊していることや、他の病院にくらべ長時間手術が多いなどの問題が検討されたことが紹介されました。大学病院としての使命を果たすためには、各分野ごとに、勤務内容を考慮した人員確保を考慮しなくてはならないのではと考えさせられました。一方、眼科紹介や乳がんにおけるセンチネルリンパ節同定による治療の紹介で、ますます先進的な治療が、当院においても取り入れられていることがわかりました。

季節的に、なべ料理などとともに、お酒もおいしくいただけることから、ついつい深酒になりがちです。健康のために、お酒はほどほどにいたしましょう。くれぐれも飲酒での事故や事件のないように、師走のあわただしい中でも気を引き締めて、明るい良い年を迎える準備をしていきましょう。

（文責　植田栄作）